

使用上の注意点

(Alert Notes)

SunOS 版 SAS システムリリース 6.12

「使用上の注意点(Alert Notes)」は、インストール前あるいはソフトウェアを使う上において、知っておく必要のある問題点を列挙しています。不明な点がございましたら、SAS インスティテュートジャパン・テクニカルサポート(TEL:03-3533-3877 受付: 9:00-12:00,13:00-17:00)までご連絡ください。

目次

インストレーション	2
Base SAS ソフトウェア	3
SAS/EIS ソフトウェア	5
SAS/ETS ソフトウェア	5
SAS/FSP ソフトウェア	5
SAS/IML ソフトウェア	6
SAS/STAT ソフトウェア	6
SAS/ACCESS ソフトウェア Oracle インターフェース	6
Solaris2.6 上で使用する場合の注意点.....	7
修正モジュールの提供に関するご案内	8

インストールシヨン

- International Support メニューで Japanese または Japanese SJIS のどちらかひとつだけ 選択した場合、後のメニューでデフォルトの言語を選択したときに以下のようなエラーメッセージが 出力されますが、インストールおよび動作に支障はありません。そのままインストール の処理を進めてください。

Choose the default language for the production level:

- *1. DBCS without language files
- 2. Japanese and DBCS files
- 3. English
- 4. Cancel

(Enter h for help)

Which option? [1] 2

Applying new setinit information...

What is the pathname of your setinit program? [/usr/lib/sas612/setinit.sas]

Is /usr/lib/sas612/setinit.sas correct (y/n)? [y]

Error: An error occurred while applying the setinit information.

Please check log file /usr/lib/sas612/setinit_japanese.secondary_encoding.log for messages.

- Solaris 1(SunOS 4.1.x)上で SAS システムリリース 6.12 を使用する場合は、インストールシヨン終了後 sas612/config.sas612.japanese ファイルの中の -fsimmopt オプションを次のよ うに変更してください。

変更前-fsimmopt motif

変更後-fsimmopt sasujm4

この処理を行わずに SAS システムを起動すると、ターミナルに以下のエラーメッセージが出力されま す。

ERROR: IMM server 'sasujms' not found.

- SAS システムリリース 6.12 を SunOS4.1.x のシステムにインストールした場合、インストールの途中およびインストール後の SAS システム起動時に以下のような警告が表示される場合があります。

```
ld.so.warning: /usr/lib/libc.so.1.x has older revision than expected 9
```

このメッセージが表示されるときには、いくつかの SAS システムのプロセスが正常に動作しない事がありますので、次のコマンドを実行してください。

```
# cd /usr/lib
# ln -s libc.so.1.x libc.so.1.9
# /usr/etc/ldconfig
```

注意: x のところには実際に警告メッセージで出力された番号に置き換えてください。

Base SAS ソフトウェア

- Solaris 2 上で SAS システムを使用する場合は、起動前に環境変数 LD_LIBRARY_PATH に /usr/openwin/lib および /usr/dt/lib を設定してください。

(例) csh の場合

```
setenv LD_LIBRARY_PATH ${LD_LIBRARY_PATH}:/usr/openwin/lib:/usr/dt/lib
```

これらのディレクトリ名が設定されていない場合は、SAS システム起動時に以下のエラーメッセージが出力され、SAS システム中で日本語を入力するための IMM ウィンドウが表示されなくなります。

```
ld.so.1: /usr/lib/sas612/dbcs/sasexe/saswujms: fatal: libXm.so.3: can't
open file: errno=2
```

- SunOS 4.1.x 上では、Helpl us, xsassm など SAS システムのツールが正常に動作しない場合があります。この現象は SAS システムが exec システム関数を呼び出そうとしたときに発生するもので、以下のエラーメッセージが標準出力に出力される場合もあります。

```
ERROR: Unable to execute !sasroot/<path>/motifxsassm
```

また、メッセージを出力しないで予期しない動作をすることもあります。例えば、Helpl us の代わりに CBT エントリ形式のヘルプが表示される、などの現象です。

この現象は SUN のバグとしてレポートされています (bug id: 1178363)。この現象は、SunOS5.x (Solaris2) では発生しません。SUN のドキュメントにはこのバグに対するパッチは用意されていないと記述されています。この現象は、使用されない環境変数をいくつか定義することにより解決される場合もあります。

(例)

```
% setenv LetsCreateOneBi gEnvi ronmentVari abl e Fal se
% setenv LetsCreateOneMoreEnvi ronmentVari abl e True
```

新たに定義する必要がある環境変数の数と長さはサイトごとの環境に依存します。

- SAS システムリリース 6. 12 を X ウィンドウ環境で起動すると、以下の警告メッセージが出力される場合がありますが、動作上問題はありません。

```
ld. so. 1: /usr/li b/sas612/sas. sol 2: fatal: relocation error: symbol not found:
_Xl cDefaul tMapModi fiers: referenced in /usr/openwi n/li b/l ocal e/j a/XLI BI 18N/x
li bi 18n. so. 1
```

```
Warni ng: l ocal e not supported by Xli b, l ocal e set to C
```

- X ウィンドウ環境で SAS システムを使用する場合、他の X アプリケーションとの間で文字列のカット & ペーストが正常に行えない場合があります。
- CDE1.0 (Solaris2.5、AI X4.1 以上など) が動作するシステムでは、論理フォント名に「-dt-application-」「-dt-interface system-」「-dt-interface user-」を含むフォントを提供しています。SAS システムでこれらのフォントを使用するように変更しても、その設定を保存することができません。この現象を回避することはできません。
- オンライン・ドキュメントやヘルプ項目を印刷する新機能を利用する場合、PCL ドライバを用いてプリンタに出力することはできません。PostScript ドライバを使用することでこの問題を回避できます。
- RANPOI 関数の乱数生成において、(7, 85) の範囲にある非整数値の平均をもつポアソン分布の乱数を生成した場合、不正な値を出力します。この問題を回避するには、非整数値の平均を整数部分と小数部分に分離し、2 つのポアソン乱数を生成した後に、これらの乱数を足し合わせてください。例えば、平均が 8.2 であるポアソン乱数を生成する場合、下記のように行ってください。

```
x1=ranpoi (seed, 8);  
x2=ranpoi (seed, . 2);  
x=x1+x2;
```

SAS/EIS ソフトウェア

- グラフ対比分析レポートオブジェクトでは、初めのサブグループの棒グラフの棒のカラーが誤って表示される場合があります。この現象は、グラフ内に良好、不調の両方の棒が存在する場合に発生します。例えば、不調時のカラーで表示されなければならないものがいくつか含まれているのに全ての棒が良好時のカラーで表示されることがあります。

SAS/ETS ソフトウェア

- MODEL プロシジャにおいて、 $y = -a + b \cdot x$ のように切片パラメータに負の符号を付けたモデル式を指定し、GMM 法で推定した時に、間違っただけの結果が出力されたり収束しなくなる場合があります。この問題を避けるには、切片パラメータに対する符号が負にならないようにモデル式を指定して下さい。
- MODEL プロシジャにおいて、WEIGHT ステートメント、あるいは_WEIGHT_変数を用いて大身付きの推定を行い、FIT ステートメントの CHOW オプションによってチョウ検定を行った場合、その検定統計量および p 値は不正な値になります。したがって、チョウ検定の統計量および p 値は欠損値、あるいは誤った数値として出力されます。

SAS/FSP ソフトウェア

- FSVIEW プロシジャでウィンドウに入りきらないような長さの文字変数の値を更新した場合、更新後の値の長さはウィンドウに表示されている長さになります。この問題を回避するには、FSEEDIT ウィンドウを使用してください。

SAS/IML ソフトウェア

- ODE ルーチンにおいて、2次元以上の問題を解く場合、ヤコビ行列を「j acobi an」にオプション指定した時、ステップ幅が誤って計算され、正確な値が得られないことがあります。この問題を回避するには、ヤコビ行列を指定しないで、ODE ルーチンを実行して下さい。

SAS/STAT ソフトウェア

- NLI N プロシジャにおいて、特殊変数_WEI GHT_の導関数(と DUD 法で用いられる差分)は、パラメータに関して計算されません。すなわち、変数_WEI GHT_がパラメータの関数であったとき、目的関数(SSE)の勾配やヘシアンには寄与しません。反復再重みつき最小二乗法(IRLS)を実行するときには、この反復計算は適切です。ユーザー指定の損失関数を使った推定を実行したいときには、この反復計算は適切ではありません。
- PHREG プロシジャにおいて、MODEL ステートメントに OFFSET オプションを指定した場合、BASELI NE ステートメント OUT オプションで出力される値は、オフセット変数を含まない形で算出されます。また、OUTSTAT オプションで出力されるデータセットには、オフセット変数に対するパラメータ推定値は、出力されません(なお、オフセット変数に対するパラメータ推定値は1です)。
- NLI N プロシジャにおいて、BOUNDS ステートメントを指定した場合、収束基準に達していなくても、それに達した旨のメッセージが出力され、反復計算が終了してしまうことがあります。

SAS/ACCESS ソフトウェア Oracle インターフェース

- Oracl e8 との接続確認は、以下の通りです。
 - Sol ari s2. x では、リンク済みモジュールを使用しての接続が確認されています。

Oracl e8 へのリンク済みモジュールは弊社の websi te(http://www.sas.com/techsup/download/maint/access/oracle/SOL2/6.12/sorav7_3_2_1)にあります。これをダウンロードし、!sasroot/sasexe/dbi ディレクトリ(!sasroot は SAS をインストールしたディレクトリ)にコピーしたのちに、sasorav7 とファイル名を変更し、すべてのユーザに実行権限を与えてください。この場合、SASMANAGER を使用して、再度リンクする必要はありません。

Solaris2.6 では、Oracle8.0.3 のライブラリを使用してオンサイトリンクで作成したモジュールで接続することが可能です。

Oracle8 へのリンクスクリプトは弊社の website(<http://www.sas.com/techsup/download/maint/access/oracle/SOL2/6.12/zdbi ora. ins. 7. 3. 2. sol 2. ts020>) にこれをダウンロードし、!sasroot/install にコピーし、zdbi ora. ins とファイル名を変更して SASMANAGER を使用して、リンクを行ってください。

Solaris2.6 上で使用する場合の注意点

- Solaris2.6 上で SAS を起動した場合、デフォルトの X リソースファイルを使用すると、FRAME エントリのリージョンタイトルなどが文字化けして表示されることがあります。この問題は、DMS(ディスプレイマネージャシステム)で使用しているフォントのサイズを 17 ポイント以上にすることにより解決します。

修正モジュールの提供に関するご案内

SAS インスティテュートジャパンは、製品出荷後に発見された不具合に対する修正モジュールなどを次のサービスにより提供しています。

1. NIFTY-Serve SAS ステーション

GO SAS コマンドで SAS ステーションへアクセスし、[4. データライブラリ] [メンテナンスモジュール]を選択して、最新の修正モジュールを入手することができます。また、[4. データライブラリ] [ドキュメント]を選択して最新情報をご覧ください。

2. World Wide Web(WWW)

WWW ブラウザを用いて、SAS インスティテュートジャパンのホームページ (<http://www.sas.com/japan/>)にアクセスし、[テクニカルサポート] [FTP サービス] [FTP サービス - サーバに接続] [maint/]を選択して、最新の修正モジュールを入手することができます。また、[テクニカルサポート] [SAS FAQ]、[SAS HOW-TO]、[SAS Notes(Version 6)]などを選択して最新情報等をご覧ください。

3. Anonymous FTP サービス

ftp コマンドを用いて、米国 SAS Institute Inc. の FTP サーバ(ftp.sas.com)にアクセスし、/pub/webfiles/Japan/maint ディレクトリに移動して、最新のモジュールを入手することができます。ユーザID、パスワードは以下のように入力してください。

```
% ftp ftp.sas.com
ftp> Name(ftp.sas.com:userid) : anonymous
ftp> Password: お客様の E-mail アドレス
ftp> cd /pub/webfiles/Japan/maint
```

上記サービスをご利用頂けないお客様で、修正モジュールが必要な場合には弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

本文書の内容に関するお問い合わせは、弊社テクニカルサポートまでお願い致します。

株式会社 SAS インスティテュートジャパン

本社	〒104-0054 東京都中央区勝どき 1-13-1 イヌイビル・カチドキ 8F T E L : 03-3533-6921 F A X : 03-3533-6927
大阪支店	〒530-0004 大阪市北区堂島浜 1-4-16 アクア堂島西館 12F T E L : 06-6345-5700 F A X : 06-6345-5655
九州営業所	〒802-0001 北九州市小倉北区浅野 2-14-1 小倉興産 KMM ビル 3F T E L : 093-512-5014 F A X : 093-512-5016
テクニカルサポート	T E L : 03-3533-3877 F A X : 03-3533-3781

本文書の内容は予告なく変更されることがあります。

SASおよび米国 SAS Institute Inc.の他のすべてのプロダクト名、サービス名は米国 SAS Institute Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他本文中で使用しているシステム名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。